

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 1月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100447		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム高陽荘		
所在地	広島市安佐北区深川8丁目36-7 (電話) 082-841-0511		
自己評価作成日	令和5年10月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年1月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然に囲まれた生活の中で隣接施設との交流を持ちコロナ禍の中で感染対策を徹底し、入居者様の機能低下を予防しつつ、お手伝いやレクリエーションを行い生活を大事にしている。排泄は入居者様の排泄リズムを観察して利用者の排泄状況を把握しトイレでの自立を目指してオムツ外しに取り組んでいる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「理念の共有と実践」につき、事業所は職員の利用者への対応や状態変化等を振り返る中で理念の実現に繋げるため、職員に気づきを促し人材育成に努めている。管理者は利用者・職員が1日に1回は笑い合える生活作りを目指して、笑顔の表出で理念の実現やケアの実践度を評価している。職員も「楽しく、明るく」するためどうすべきかを意識した実践に取り組んでいる。又事業所は「馴染みの人や場との関係継続の支援」を重視し、現在は感染対策を施した上で居室での面会が可能となっているが、家族の協力のもと受診・法事・外食等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。その閉じこもりがちな生活の弊害も考慮して利用者を理解し、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。</p>
---

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有して管理者・職員は情報を周知し、入所者一人ひとりを理解しケアの維持・向上の実践につなげている。	開設時に作成した理念をケア実践上の道標として事務所に掲示し周知を図っている。利用者への対応や状態変化等を振り返る中で理念の実現に繋げるため、管理者は職員に気づきを促し人材育成に努めている。職員も「楽しく、明るく」するためどうすべきかを意識した実践に取り組んでいる。	開設から12年を迎え、理念の周知や実践についてより深く取り組むことで更なる向上を期待したい。事業計画も踏まえた分かり易い具体的な年間目標を設定し、定期的に達成度を評価して記録に残す等、検証過程を「可視化」することで職員間の認識を共有化し理念の定着に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	隣接する事業所と連携を取り感染症の状況を見ながら合同で行事を行ったり地域住民と交流を持ち、地域の移動販売を利用しながら顔見知りになり交流をしている。	コロナ禍の緩和で職員が地域のとんど祭りへの参加や利用者が家族の協力のもと、受診等で外出している。家族の面会・地域住民の運営推進会議への参加、近所から野菜等の差し入れ、移動販売等、双方向の交流や隣接事業所との合同レクで子ども神楽団を受け入れる等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流や介護教室の参加で情報を地域住民に向けて活かしている。コロナ禍で現在は地域交流や介護者教室への参加を行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的開催し、施設の状況を伝えながら家族様や地域の方の助言を参考にし、より良いサービスを目ざして改善し向上に努め活かしている。	会議は階下系列施設と合同で隔月に開催、4月からは対面会議で家族代表者・地域包括支援センター職員・民生委員・老人会会長、時に区担当課職員等が参加している。事故報告等、事業所の現況を参加者に報告し、参加出来ない家族には近況報告書の備考欄に議事録の要点を付記している。	多様な職種の参加はあるが、会議の質疑応答では意見は少ない。事故の分析評価や家族への近況報告書に議事録の要点を付記する等の工夫もあるが、事業所運営に関する情報交換が不十分である。今後は関係者から意見が出しやすくなる仕組み作りにより会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し情報交換を行いながら案内やお知らせなどを送付し協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、事業所運営について情報共有をしている。市とは日頃の相談・連絡、運営推進会議の開催報告書の送信、虐待防止の研修にオンライン参加する等、連携強化を図っている。地域包括支援センター主催の介護者教室開催にも協力していた。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会で具体例を確認し、申し送りの場で職員間で話し合い不適切なケアがないか現状確認を行いながら情報を共有している。委員会を設置し研修や勉強会で知識を深めより安心・安全な生活を送られるよう日々取り組んでいる。	毎月の身体拘束・虐待防止委員会、1～2か月毎の研修会、年に1回の自己点検表等で職員は拘束をしない必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対しては管理者が気づきを促したり、申し送りノート等で職員は共有している。玄関は施錠し見守り対応をしている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者様の状態観察や見守りを行い精神的安定を行いつつ安全を確保している。研修で学んだことを職員に伝え、言葉使いや行動に気を付け身体拘束・虐待防止に努めている。	/	
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用で資料やパンフレットを職員間で勉強し知識を取り入れている。弁護士資格を持つ後見人と連携し支援をしている。	/	
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に当施設の趣旨を理解して頂き家族と話し、理解をして頂いて疑問や不安などを丁寧に応えている。身体状況や日常生活においては詳細を得て施設対応やサービスについてご家族様・入居者様に説明し理解・納得を図っている。	/	
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には必ずご家族様にお声をかけ話す機会を設けており利用者からは日常生活の中から意向をくみ取り毎月の手紙と広報誌を掲載の許可を頂いた上で行事や日常生活の様子を報告し運営に反映させている。	利用者の要望は普段の会話を通じて把握し、家族とは面会時・電話・メール・介護計画見直し時・運営推進会議・意見箱・毎月の近況報告書等で管理者・職員が把握する様に努めており、申し送りノート等に残留して職員間で共有し、迅速な対応に努めているが、要望等は特に出していない。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員個々に意見を聞く機会を設けたりグループ毎、または全体で話し合いをし勉強会を行ったり意見を反映させている。</p>	<p>毎日の申し送り、毎月の全体会議・各種委員会、随時のカンファレンス・個別面談で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を取っている。職員提案により、食が楽しみとなる様ケーキバイキングの導入、夜間良眠を図るためポータブルトイレを設置等の例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の希望休みの調整や体調などを考慮し、勤務時間や内容など無理なく働けるようお互いに協力し合いやりがいや向上できるような職場環境・条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員一人ひとりのケアの実際を観察し、施設内の勉強会や外部の研修会などに参加し、助言をしながらトレーニングを行い向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修などに参加し同業者の方と意見交換し視野を広げサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>それまでの情報をよく知り、そのうえで情報を確認しながらご本人の様子を見て話し、ご本人の言葉に出来ない要望も汲み取れるよう安心して生活して頂けるよう関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望や思いを聞きしっかりとコミュニケーションをとりながら不安を解消し安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用開始をなぜ希望されたのかよく話を聞いてニーズを把握しそれに対応していけるように話し合い、医療機関とケアマネジャーと連携し適切な対応を考えながら日々対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者様と向かい合って話を行い納得した生活が送られるようともに活動することにより信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様やご家族様の要望を聞き報告したうえで共に考えて活動できることは共に行い家族の支えがあることをご本人にお伝えしながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症対策を継続しつつ面会を再開し電話の取り次ぎ、文通や交換日記などで直接会えなくても関係が途切れないよう支援に努めている。	「訪問しやすい事業所・地域との絆」を重視し、現在は感染対策を施した上で居室での面会が可能となっている。又、電話・手紙・交換日記のやり取りの他、家族の協力のもと受診・法事・外食・買い物等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の性格や相性を把握したり声かけやテーブル席でお手伝いやゲームなどを職員と関わり合いながら良好な関係が継続できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人やご家族のご様子を医療機関や他事業所などと連携し相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者ご家族の思いを丁寧に聞き言葉にならない思いも汲み取り意向に添えるよう検討している。	利用者の生活歴等から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。歩けなくならないようにベランダでの歩行練習を自ら日課にしたり、時に不穏になる利用者の話を傾聴すると居室で寝たい等、本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方を踏まえた上で一人ひとりのペースに合わせ経過を把握していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の日々の過ごし方を把握し職員で情報を共有しながら自分の残存能力を活かしながら現状の機能を維持できるように把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人やご家族の意見やなりたい自分の為に職員や看護師、医師などと連携を取りながら無理のない現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族、関係職種の意見を反映した原案を申し送り時の担当者会議で適宜検討し本案としている。日勤者が毎日モニタリングを行い、管理者が職員意見を勘案して半年を基本に計画を見直している。立案の視点として「役割・生きがい作り」や「自分でできる事は自分で」を重視している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録に特記事項として記録し申し送り時や職員間の申し送りノートに記載し情報共有し変化時は職員間でカンファレンスを行って改善し実践とモニタリングでプランの見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本来ならば家族や多職種連携を取りながらサービスを行うがコロナ禍の中で施設内で出来ることを活用しながら充実した生活を送って頂けるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で他事業所や外出行事が難しいなかで少しでも気分が変われるように誕生日会や食事会を行い普段の生活と違う雰囲気を楽しむことができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎週一回主治医の往診を受け各ホーム隔週で見て頂きご本人の訴えや症状を相談している。必要があればその都度相談することができ、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全利用者は協力医を主治医とし、各ユニットは隔週で内科・歯科、隔月で皮膚科の訪問診療を受けている。専門科受診は事業所又は家族が協力している。又訪問看護から週1回の来訪もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回訪問される看護師に体調管理や気になることを相談している。急な体調不良や気になることを電話で状況を伝え受診などの指示を受け適切に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で病院への面会はできないが医療連携室や主治医に様子を聞き情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	高陽ニュータウン病院、訪問看護やご家族、ご本人の希望を確認し当施設でできることを説明し支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化・終末期における指針を説明し、了承を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には早い段階から家族・医師等で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。協力医との医療連携をもとに医療機関等への移行を含め、適切な支援を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者の日々の様子にいち早く気づき職員間で共有し対応の仕方や連絡方法などを勉強会などで対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2か月に1回の避難訓練で昼体制、夜勤体制で火災や土砂災害などの訓練を隣接施設や他事業所と連携をとりながら訓練を行っている。	年1回の消防署立ち会いを含め、隣接施設等と合同で隔月に火災・土砂災害避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。ハザードマップによる土砂災害を警戒し、減災対策として1階倉庫で備蓄を更新中である。町内会自主防災会と災害応援協力協定書を締結している。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の先輩と心がけ丁寧な言葉使いを意識している。不安な時も職員が向き合い傾聴をし各利用者に合わせて声かけや状態に合わせて信頼関係を作り対応をしている。	研修で職員の幅広い知識習得と資質向上を図り、年に1回の自己点検表等にて日頃の言動を振り返っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不安を和らげる様に努め、不適切な対応には管理者が気づきを促している。個人情報も介護ソフトのシステム化で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の希望をよく聞きその希望を職員間で情報交換をしながら自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活のペースを保ちながら本人の様子を伺いながら希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員とともに入居者に好みを聞きながら選んで頂き楽しみのある生活が送られるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人ひとりの状態を見つ、食器や形態を変え、むせないようにトロミ剤を使用したり食べやすく利用者に合わせて提供し入居者自身で行って頂き残存能力を活かしている。	外部業者の献立により調理された副食の食材を事業所で加熱している。食が楽しみとなる様、週三日のパン朝食やフレンチトースト等のおやつ作り、ケーキバイキングを企画したり、お好み焼きの出前や差し入れ野菜が食卓に上ることもある。利用者にも洗い物等の役割を担ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分と食事の摂取量を毎日記録している。食事量の低下が続く時は栄養補助食品を提供し血糖値が高い方や水分制限のある方は過度な摂取にならないよう管理し支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>週1回の訪問で口腔ケアに努めている。毎食後の口腔衛生を促し洗面所へ誘導し義歯洗浄や自分で歯磨きを行って頂き必要であれば職員が仕上げを行っている。義歯は就寝前に洗浄剤を使用し消毒を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し個々の排泄パターンを把握し誘導・介助を行っている。安易に紙パンツを使用せずこまめにトイレ誘導を行うことで自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握し、早目のトイレ誘導により殆どが布パンツ対応である。入院中の紙おむつから紙・布パンツへの移行や姿勢安定のために可動式手すりの設置、夜間排泄時の転倒防止に床センサーマットを設置する等、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>こまめな水分摂取とヨーグルトにきな粉を加えたり個々の排泄状況に応じてオリゴ糖を入れて対応したり1日2回の体操を取り入れ予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>自宅感覚で入浴をして頂き安心感を与えながら安全に配慮し入浴を楽しんで頂くよう心がけている。入浴を拒まれた時は無理にせず時間をずらしたり日を改めたり個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて柔軟に対応している。入浴は据え置き式家庭浴槽を利用した個人浴だが、寛げるように歌を一緒に歌ったり、保湿も可能な入浴剤を使用することもある。又浴室の上部に加熱器を設置し、冬期のヒートショックに配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の意思や日々の体調に合わせて居室で過ごしたり臥床を促し自分のペースに合わせて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師より処方された薬の必要性等を職員周知し投薬を行っている。医療関係者と連携を取り体調変化に留意し服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自宅でされていた家事や趣味、聞きなれた音楽を聞きながら体を動かすことで役割や充実感を持ち気分転換などの支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策を行いつつベランダを散歩したりご家族の面会や外出も再開している。隣接された園児の活動見学で交流を持ち支援している。	利用者の希望により少人数で近隣散歩や家族協力も得ながら定期受診、墓参り等で外出している。花見・近隣ドライブ等、普段は行けないような所で「非日常」を楽しむこともある。3階ベランダを散歩しながら隣接こども園の活動を見学したり、玄関先で移動販売を利用することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の能力に応じてご家族の了承の上自己管理を行っている。貴重品をご自身で管理して頂くことで意欲や責任を持って使えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目( さくら )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族との交換日記や電話の取り次ぎを行いやり取りをすることで楽しみや安心感を持てるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の方々と一緒に作品物を作りより季節感を感じて頂けるよう季節ごとに作成している。室温度計を確認しつつ各、入居者の方に合わせて室温調整を行い快適に過ごせるようにしている。</p>	<p>リビングは3階ベランダから明るい光が差し込む開放的な空間であり、屋内の鉢植え・季節行事の飾り付けや習字等、利用者が取り組んだ壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられる様配慮している。利用者によっては洗濯物畳み・食事準備・掃除等を手伝い生活感のある空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングで過ごしたり季節に応じて飾り付けを職員とともに会話をしながら作成しつつ季節を感じ個人の作品を飾ることで達成感や会話のきっかけを作り工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の方が作られた作品を居室内に飾り心地良い空間作りをしている。移動の妨げにならないよう安全なスペースを確保している。</p>	<p>居室にはベッド・クローゼット等を設置し、使い慣れた物や自作品等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッド・壁間にマットレスを挿入等、家具の配置替えでリスク管理をすることもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立歩行や歩行器を使用される方々に利用しやすいようにバリアフリーで付き添いや見守りを行い自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目( さくら ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有し管理者・職員は情報を周知しサービスの提供を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者様が地域行事に参加したりイベントを開催するなど入居者が積極的につながりを深め、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍前は介護者教室をはじめ地域の方や入居者のご家族様と交流の場を設け認知症などに向けて活用していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族の要望や地域包括支援センター、地域の助言、現場の介護者の意見を出し合い、現状を分析と評価を行うことで個々にあったサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行事や入居者の方々の近況のわかる情報誌を作成しており、ご家族の方や地域の方々と協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束とはどういうことが該当するか等職員間で共有し常に意識して業務に取り組みながら入居者の方に対するケアも人によって違いがありその人に合った個別ケアを実践している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のご自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員間での意思と介助の質を統一し、入居者の状態をしっかりと申し送ることで虐待防止に努めている。また定期的な勉強会を開催し再認識し事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意をしながら防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	職員は、勉強会や研修を通して制度や知識の向上と習熟に努め、ご家族や入居者様の必要な支援を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族には当施設と他施設の違いをしっかりと説明し質問・疑問に答え、ご理解と納得を図っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方やご家族の意見や要望で面会時電話等で確認しながら訪問看護や主治医と連携を図りながら希望に添えるべく個別ケアにて運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員間で毎月勉強会を行っており日々の状態の変化に対応すべく話し合ったりいろいろな提案・意見を反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員間でお互い協力しあいながら仕事・休憩と現場から離れてけじめをつけて環境、整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修参加は無論、日常の業務の中で状況に応じてテーマや対応を常に職員間で勉強し知識を深めながらトレーニングするように心がけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業者との相互訪問を行ったり情報交換を行うことで他施設や他同業者との交流により、より良いサービスを提供し高揚させていく取組みをしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居者様とたくさん話をしたり聞いたりしながら好きな事やしてみたいことを可能な限り叶えられるようにしながら信頼関係を築き関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時にはよくご家族と話をし不安やご要望を聞きご家族が安心できるように努力している。またお手紙などによりここでの生活の様子とご家族から了承を得た写真掲載の新聞を送り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	常に入居者様の状態を確認しその時々で入居に良いと思えるケアを職員間で話し合い統一したケアを行うように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除や洗濯なども含め、入居者様とともに رفتりしたり分担したりしながら信頼関係を持ちながら生活をし関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月施設での生活の様子を手紙などでご家族様に報告したり変化や状態を細かく伝え、その都度家族連絡を行い情報を共有し関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染対策を継続しご家族を含め、友人、知人とも気軽に面会できるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションだけでなくお手伝いなどを一緒に入居者同士が関わるようにし入居者同士の人間関係が良好になるよう職員が見守りや会話を行い関わり合い支えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も情報を確認し、必要に応じて相談や助言をご家族様や関係機関に伝えられるよう情報を共有し支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や様子、表情など関わりの中で感じたことや気づいたことは職員間で共有しご本人の意向に沿った生活が送れるよう思いの把握に向け検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やご本人様からこれまでの生活歴を聞き職員間で情報を共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態変化を観察し、変化時は職員間で話し合い現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日常生活の中で小さな変化にも留意し職員間で情報を交換し話し合いに基づき現状にあった介護計画を作成し半年に1回見直しをしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケア、気づきや状態変化を個別に記入して情報を共有し、勉強会を行いながら介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人一人にあったサービスの提供を心掛け柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスができるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍の為ボランティアの方や地域の方と接することができなかったが感染対策を講じながら協働し生活が送られるよう支援していく。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>医師や看護師、介護職員で連携を取り2週間に1回の往診時に健康状態を先生に相談し適切に医療を受けられるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様の状態を職員間で共有できるように申し送りノートに記載している。日頃の状態を観察し報告や相談をし適切に看護を受けられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コミュニケーションを図り情報を共有し協力医療機関と連携して相談しやすい環境作りに努めている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に施設の方針で看取りや行っていないことを説明し了承を得ている。重度化した場合はご家族の希望をお聞きしかかりつけ医と連携し希望に添えるようチームで支援できるよう取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に勉強会を行い早期に対応出来るように医療と連携を図りながら知識向上に努め日々実践力を身につけている。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2か月に1回火災や土砂災害なども訓練を昼夜の体制を問わず行い職員が誰でも対応できるように努めている。年1回職員は防災センターで研修を受け、備蓄は定期的に確認している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の方ということに意識し敬う声掛けをするように努めている。馴れ馴れしい言葉使いにならないよう勉強会を行い職員の質の向上に努めプライバシーを損ねることがないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人の思いを聞き、意思や希望を把握しニーズに応え自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は業務優先にならないように入居者目線に対応し一人一人の様子見ながら個々のペースで過ごして頂き希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みを聞き、季節に合わせて身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しみながら自分の使い慣れた食器を使っている。利用者の個々の能力を生かしながら食事前の準備や後片付けを職員とともに行っている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。</p>	<p>一人一人の食事形態を把握し美味しく食 べて頂けるように食事量や水分量を記録 し栄養不足などを懸念しながら体調管理 に努め習慣に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科と連携し指導を受けながら毎食 後に入居者様の義歯洗浄や歯磨きを促し 自力で行えない方にはお手伝いをし生活 な口腔状態を保つように行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の入居者の排泄リズムを把握し早め の声かけや誘導、排泄間隔を考えなが ら自立した生活を送って頂ける支援を行 っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表で排泄の間隔や状態を把 握し水分補給や運動を取り入れている。 またオリゴ糖も活用し自然に排泄がで きるよう促し予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。</p>	<p>体調・精神状態を確認しながら各個人 のペースに合わせて入浴できるようにし ている。入浴を拒まれた際は時間を置い たり日にちを変更して気分よく入浴で きるよう個々に応じた支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動を促しレクリエーションや運動を取り入れ質のよい睡眠がとれるよう支援している。また室温管理も行い安心して睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が服用している薬をよく理解し的確に服用出来るよう名前、日付朝昼夕の声出ししながら確認している。体調変化時は訪問看護に相談し受診の状況と情報を共有しながら症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの趣味が継続してできることや入居者一人一人の意欲に合わせて自主的に取り組めるものを提供し充実した生活を送って頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染対策を行って定期受診へ外出し近辺を散歩し桜の木をみて季節を感じて頂いた。毎日ベランダを散歩し景色を眺めながら外気浴をし気分転換を図れるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	感染症の時期でも館内にある設備にて付き添いにてご本人が購入をして頂いている。コロナ禍で外出が困難でご家族と連携を取りながら職員が要望の物を購入し支援している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族、ご本人と相談して連携を取りながら携帯電話の管理使用をして頂いたり依頼時の手紙の投函、届いた手紙をご本人に手渡しをしやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>感染対策を徹底し季節にこまめに応じて温度や湿度の確認と調整を行い居室と共用場との室温度も注意している。昼夜の明るさも注意し環境を整えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有部分で職員と一緒に飾りを作りながら会話をしたりすることでくつろげる場所を確保できるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者様の動線の妨げにならないように気を付けて家具等配置している。使い慣れた物を持ち込み精神的安定の為に居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立歩行や歩行器を使用される方々に利用しやすいようにバリアフリーで付き添いや見守りを行い自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目( もみじ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム高陽荘

作成日 令和6年2月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員同士の目標が見えない。	利用者の笑顔を見せられることを周知させる。	職員間で目標を作り定期的に達成できたかどうかを振り返る。	2か月
2	10	事故やヒヤリハットの対策を家族に報告が不足。	2か月に1回手紙で報告と対策を送付。	起きた時間や場所その対策をどのように行ったかを分かりやすく家族へ伝える。	2か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。